

平成 31 年 3 月 6 日

足立区立第六中学校
学校長 柏木 圭子 様

足立区立第六中学校開かれた学校づくり協議会
会長 鈴木 榮造

平成 30 年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

本年度、六中は、「確かな学力を身に付けさせる学校」、「心身ともに健やかな生徒を育てる学校」、「生徒、保護者、地域から信頼される学校」を目指して教育活動を推進し、

- (1) 学力向上については、昨年に引き続き、毎日 10 分の朝学習、週 3 回 40 分ずつの放課後補充教室及び長期休業中の補充教室 7 回等を行ったことにより、都学力調査の数学では都平均正答率を上回った。
 - (2) 関係小学校や家庭・地域との連携については、積極的に取り組んでいる。
 - (3) 生徒の健全育成については、生徒と教員との信頼関係を土台に、朝の身だしなみ登校指導、チャイム着席指導をして、基本的な生活習慣の徹底を行っている。
- などに取り組み、それぞれに成果がみられたものと評価する。

重点的な取組事項－1 「学力向上」

今年度の成果目標：達成度△（達成せず）は妥当と評価する。

「落ち着いた学習環境の維持」については、各教室環境を整備し、挨拶やチャイム着席等の規律を徹底し、全生徒が落ち着いて学習できる環境作りを行うことができた。

「放課後補充教室」については、週 3 回、全教員で学習支援ボランティアの協力を得ながら、英語、数学を中心に個々のつまづきを解消する指導を行い、自ら進んで学ぶ雰囲気が出た。

「長期休業中の学習教室と土曜学習講座」については、夏季休業日中は 7 日間のサマースクール、土曜学習講座年 10 回を計画どおり行い 100% の実施率であり、問題の解決力を身に付けさせ、数検、英検においては、各生徒が目指す級の取得をした。

「家庭学習の充実」については、全学年で昨年に引き続き「自主学習ノート」を活用し、昨年度から作成している「家庭学習ガイドブック」を活用し、家庭学習の重要性を啓発し、習慣を身に付けさせようとしたが、1 日の家庭学習が 1 時間未満の生徒が約半数おり、全ての生徒に習慣を身に付けさせることはできなかった。今後も、家庭学習を定着させることを中心に、粘り強い取り組みをさらに行っていく必要があると考えられる。

「授業改善・若手教員の育成」については、教科指導専門員の支援を受け、授業力向上への意識をさらに高め、管理職による授業参観を通して、新学習指導要領で求められている学力をしっかりと理解し、生徒の立場になって行う授業改善に努めた。

このように前年度より充実した様々な取り組みをし、授業アンケートからは「授業がわかる」が 83.5% となり昨年度より 3.1% 増加した。着実に基礎学力が定着してきていると伝わるが「区学力テスト」の結果は、3 教科とも、残念ながら達成基準を満たすことができなかった。

よって、「学力向上」については、教職員の努力は大いに認めるが、達成せずと評価する。

重点的な取組事項－2 「関係小学校や家庭・地域との連携」

今年度の成果目標：達成度◎（十分に達成）は妥当と評価する。

「小中連携」については、6 回の教科に関する合同研修会を計画どおり行い、今年度は、道徳に関する研修会も 1 回実施した。さらに小 6 授業体験、小学校夏季補習ボランティアを実施し、絆を深め、お互いの学力向上を図っていることが伺える。

「家庭との連携」については、学校の情報を詳細に発信し、三者面談や電話で相談を受け止め、保護者と教員の信頼関係を強固にした結果、学校評価アンケートでは、保護者からの肯定的回答が81%以上となり、学校への満足度は高いものとなった。

「地域との連携・協力」については、地域における青少年対策の行事、開かれた学校づくり協議会主催の六中マルシェ等において、ボランティア活動をした生徒は94.7%となっている。

よって、「関係小学校や家庭・地域との連携」は十分に達成と評価する。

重点的な取組事項－3 「生徒の健全育成」

今年度の成果目標：達成度○（おおむね達成）は妥当と評価する。

「基本的な生活習慣の徹底」については、生活委員によるあいさつ運動や教師によるチャイム着席の点検を実施し、時間を守れる落ち着いた学校の実現を行うことができた。

「道徳教育の推進」については、道徳教育推進教師を中心に授業を行った結果、道徳教育に対する教員の意識を年々向上させることができているが、新学習指導要領の理解、評価に関する研修は継続する必要がある。「いじめ、不登校への対策」については、不登校は家庭との連携を第一に外部機関との連携も図り、昨年度比10%減となった。

また、「心の声アンケート」を毎月行い、早期発見、迅速に対応、解決ができている。

よって、「生徒の健全育成」はおおむね達成と評価する。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

生徒は、前年度に引き続き、学習・学校行事・部活動などに自ら進んで、精一杯取り組んでいることが伺える。運動会・文化祭（合唱コンクール）・マラソン大会などの全校行事では、生徒の実行委員が中心となって運営し、クラスが一致団結して取り組んでいた。部活動では、吹奏楽部においては、各住区センターまつり、各小学校でのおまつりで演奏し、地域との交流を深めた。他の部活においても、都大会出場など、良い成績を修めている。

また、地域（地区対）の「荒川ウォーク」、開かれた学校づくり協議会主催の「六中マルシェ」では、多くの生徒が自ら進みボランティアとして参加し、活動を盛り上げている。

学校は、町会・自治会、同窓会、開かれた学校づくり協議会を通して、地域との連携を深め、地域から信頼される学校づくりに努めていると認識している。

なお、今後、課題である不登校生徒の解消については、前年に引き続き減少し改善傾向にあるが、今後も開かれた学校づくり協議会としても、さらに学校、生徒の力になれるよう努めていきたい。

3. その他

六中は90%以上の生徒が部活動に参加しており、部活動が盛んな学校である。生徒も素直で人なつこく、さわやかな明るいあいさつができ、身だしなみもきちんとしている。学年を重ね、学校行事を経験していくうちに、仲間意識が強まり、達成感を感じながら、大きく成長している姿に「心身ともに中学生らしい健康な生徒」が育っていると感じられる。

学習面においては、課題の一つである積み重ねが大切な教科の基礎・基本が不十分な生徒の学力を、教員の授業改善を軸に、わかる授業を行い、個々のつまずきの解消を図り、基礎学力を付けさせ、さらに家庭学習を定着させ、全校生徒のさらなる学力向上を目指していただきたい。

また、不登校生徒については、年々改善はしてきているが、さらに学校・家庭・行政機関・地域と連携しながら、1人1人の状況に応じたきめ細やかな支援を行い、1人でも多くの生徒が充実した学校生活を送ることができるように、協議会としても力になりたい。

開かれた学校づくり協議会は、六中が好感をもたれ、「六中生でよかった」「六中生に教えることができよかった」「六中の地域に住んでいてよかった」「これから六中生になりたい」と、六中に関わった全ての人たちに愛される学校であり続けられるように、今後も学校と一緒に、生徒、保護者、教職員、教育委員会（行政）、地域との連携をより深めていきたい。

以上